

(様式 2)

女性の就農環境改善計画

実施主体名	ゆるベジ研究所ミルクベッチ	
取組	(2) 地域の女性農業者グループの活動支援	
構成員数	5人 (うち、女性の人数: 5人)	(令和4年5月時点)

1 事業実施方針

岐阜県では毎年、20名前後の女性が新規に就農している。しかし地域の生産者部会はまだまだ男性中心であること、県内の多くの地域は交通の便の悪い中山間地であること、既存の女性グループは一世代上のメンバーが中心等の理由から、同世代の女性農業者同士の気軽な交流の機会があまりなかった。そのため、就農後に孤独を感じる女性農業者も少なくない。

本グループはこうした現状を踏まえ、「気が向いた時に、わいわい楽しく」をモットーに、次のふたつを活動の柱として女性農業者の定着と、新規女性就農者の呼び込みを図る。

- ① 女性の必須栄養素 Girl's talk の場をつくる。
- ② 明日にむけて頑張るために、モチベーション&スキルアップの場をつくる。

具体的には、

- ① オンラインのビデオ会議による月例お茶会 (1時間程度)
お互いに顔をみながらフリートークで親睦を深める場とする。
交流の場をオンラインとすることで、居住地域に関わりなく誰でも気楽に参加でき、会場への往復時間が発生しない分、農繁期であっても気軽に参加できる。
なお、日程等の事務連絡用に、会員向けのオンラインチャットグループを開設する。同チャットグループは事務連絡の他、会員同士の日常的なおしゃべりの場になることも期待できる。
- ② リアルな場での視察研修、勉強会
・先進的農家や関連企業等の視察研修 (年1回)
・専門家を招いての勉強会 (年1回)
リアルな場での顔合わせによりメンバーの親睦を深めると同時に、各自のスキルアップやモチベーションを高め、女性農業者の定着に貢献したい。

女性農業者の新規獲得に向けて

本グループはあくまでも女性農業者同士の交流や支えあいを目的とする場であり、直接的に新規雇用を生み出せる訳ではない。しかし、前述の活動内容やその成果を、プレスリリースやSNSで積極的に発信したり、就農希望者向け研修会などでグループへの参加を呼びかけたりすることにより、次のように貢献したい。

- 岐阜県内に活発な女性農業者グループがあることがわかる

→岐阜県での就農に魅力を感じてもらえる

●就農前から仲間づくりや不安解消の場が持てる

グループの将来的な活動に向けて

運営メンバーも農業者であり、農繁期は忙しい。「無理をしないこと」をグループ継続のための原則とし、「気が向いた時に、わいわい楽しく」は運営側にも共通のモットーとしたい。

一方、夢として、将来的に活動が軌道にのり、グループの活動が一般にも知られるようになったら、本グループメンバーであることをPRした販売活動などを行うことも想定できる。そこで初年度から、プロのデザインによる女性らしいロゴマークを作成し、グループPRのツールとしたい。

2 女性就農環境改善に向けた実施体制

発起メンバー

代表：[谷下農園（下呂市）]

副代表：(有) 水野園芸（恵那市）]

広報：[酒向農園（美濃加茂市）]

会計：[Agriarte（加茂郡七宗町）代表]

監事：はげした農園（高山市）]

発起メンバーは岐阜県農政部農業経営課主催の「令和3年度 ぎふ女性農業者次世代リーダー育成塾」の参加者が中心となっている。

しかしそれ以外では、それぞれの作物、地域や、研修の過程、就農年数、経営規模・形態は異なっており、中日農業賞受賞者、農業関係の有資格者（農業改良普及員資格など）、子育て世代の女性を応援するNPO法人の理事を務めるメンバーなどもいて、多様性に富んでいる。

だからこそ、女性農業者の様々な思いに寄り添い、いっしょに成長していけるものと信じている。

現在LINEのチャットグループ上で意見を交わしながら、新規メンバー受け入れに向けての準備をすすめている。

岐阜県農政部農業経営課にもご助言いただいております、新規メンバー募集に際しては同部に呼びかけのご協力をいただけることになっている。

3 女性就農環境改善のため実施している取組及び今後の取組

(1) 女性の就農希望者、新規就農者の呼び込みに向けた取組

内容	成果/目標	備考
1) 県内の就農希望者向け研修会での本グループのPR	1) 県、JA、農業会議などが主催する就農希望者、新規就農者向けの研修会でチラシを配布。 女性新規就農希望者 3 名以上の入会を目標とする。	
2) プレスリリース、SNS での本グループ PR	2) プレスリリースで本会の取り組みについて取材依頼、成果発表	

(注)「内容」欄には具体的な取組内容等を記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

(2) 女性の新規就農者の農業や地域への定着に向けた取組

内容	成果/目標	備考
オンラインのビデオ会議による月例お茶会	10 月以降 月 1 回開催。 一回、一時間程度。 毎回 10~20 名の参加を目標とする。	

(3) 女性就農環境改善に向けた取組

内容	成果/目標	備考
<p>秋と冬に先進的農家や関連企業、団体などの視察研修、勉強会をそれぞれ開催する。本グループメンバーの地域や作物はそれぞれ異なるため、農業全般に共通する基本的なテーマを取り上げていきたい。</p> <p>本年度については、経営発展のヒントとなるような、先進的農家や県の技術センターの視察、農業や肥料削減をテーマとした勉強会を予定している。</p> <p>内容の濃い、話題性のある視察、勉強会にすることで、本グループのPRや新規会員獲得にもつなげたい。</p>		

<p>1) 勉強会 後藤逸男 東京農業大学名誉教授（農林水産省「肥料高騰に対応した施肥改善等に関する検討会」検討委員、「全国土の会（農家のための土と肥料の研究会）」会長）をお招きして、肥料削減の考え方を学ぶ。</p>	<p>1) 年一回開催 目標参加者 30 名※</p>	<p>発起メンバーの一人が「全国土の会」の会員となっており、後藤教授には勉強会開催について相談済み。</p>
<p>2) 視察研修 新型コロナウイルスの終息が見通せないことから、今年度は視察先を県内に絞る。 現在、下記2か所と交渉中 ・6次産業化を進める先進的農家 ・岐阜県農業技術センター</p>	<p>2) 年一回開催 目標参加者 30 名※</p>	
	<p>※新型コロナウイルスまん延の状況によっては、参加人数を 15~20 名程度に絞ることも考える。</p>	

4 女性の就農環境改善対策事業を活用した取組の計画内容

(2) 地域の女性グループの活動支援

【課題】 ※簡潔にご記入ください。※課題番号は必要に応じて追加・削除ください。

①	女性農業者の横のつながりが薄く、就農後に孤独を感じる人が多い。
②	就農後にモチベーションやスキルの向上を手助けしてくれるような場が少ない

【課題解決のための補助事業（概要）】 ※課題番号に対応するように記入ください。

①	<p>女性農業者がいつでも気軽に誰かとつながることができるように、オンラインでの活動をメインにしたグループを作る。 →グループの認知度を高めるため、ロゴを製作する。 →グループを周知し、新たなメンバーを勧誘するためのチラシを作る。</p>
②	<p>先端的農家や最先端の研究内容に触れられる視察研修を行い、モチベーションアップにつなげる。</p>
③	<p>講師を招いて、共通する課題解決のための勉強会を開くことにより、スキルアップにつなげる。</p>

【事業成果と今後のプラン】

※課題番号に対応するように記入ください。

※どのようにグループ活動の活性化及び今後の活動に繋がるか分かりやすく記入ください。

※できる限り、数値目標を入れてください。

※商品計画については、翌年度以降の販売事業計画をご記入ください。

①	できるだけ早めにオンラインのチャットグループを開設し、日常的なおしゃべりや情報交換をしながらメンバーを増やしていく。
①	オンラインのビデオ会議による月例お茶会（1時間程度）を9月以降本格稼働させる。本格稼働のタイミングでプレスリリースを発行し、会の周知に努める。
②	視察研修の参加人数は25名（コロナの状況によっては15～20名）前後を目標とする。視察研修をきっかけに、積極的に入会を勧誘する。 また、事前にプレスリリースで取材依頼を行い、会の周知に努める。
③	勉強会の参加人数は20～25名程度を目標とする。勉強会をきっかけに、積極的に入会を勧誘する。 また、事前にプレスリリースで取材依頼を行い、会の周知に努める。

【事業内容（詳細）】

課題番号	時期	グループ活動内容（対象者・方法等）	事業実施経費（費目、金額）	備考
①	2022年6月	役員全員による第1回運営会議（役員自宅で持ち回り開催）	旅費、¥16,719	議題：①新メンバー募集方法について②会員用チャットグループ解説準備、運営方針確認③ロゴ発注準備
①	2022年7月	役員全員による第2回運営会議（役員自宅で持ち回り開催）	旅費、¥16,280	議題：①ロゴ案についての検討など②メンバー募集チラシ作成準備③運営状況の確認、見直しなど
①	2022年7月～8月	グループのロゴマーク作成（外部デザイナーに発注） 完成したロゴのシール（名刺用）印刷	役務費、¥50,000 消耗品費、¥7,164	
①	2022年7月	オンラインのチャットグループのオープン		
①	2022年8月	メンバー募集チラシ作成（外部デザイナーにレイアウトを発注。印刷はオンライン印刷で発注）	役務費、¥20,000 消耗品費、¥3,545 消耗品費、¥388	

①	2022年8月	オンラインのビデオ会議による月例お茶会の本格オープン		
①	2022年9月	役員全員による第3回運営会議(役員自宅で持ち回り開催)	旅費、¥12,295	議題：①視察研修、勉強会告知チラシ準備、配布先の確認など②運営状況の確認、見直し
②	2022年9月	視察研修告知チラシ作成	消耗品費、¥910	
②	2022年9月	勉強会告知チラシ作成	消耗品費、¥910	
②、③	2022年9月	視察研修、勉強会告知のチラシを発送	通信運搬費、レターパックライト×3 ¥1,008	
②	2022年10月	視察研修(全会員、貸し切りバスで移動)	使用料及び賃借料、¥112,800 消耗品費、¥9,149 謝金、¥9,700	消耗品費で購入したコロナ対策関連品は勉強会でも使用
①	2022年11月	役員全員による第4回運営会議(役員自宅で持ち回り開催)	旅費、¥8,062	議題：①勉強会準備②運営状況の確認、見直し
②	2023年1月	勉強会(全会員)	準備段階での資料 通信運搬費 ¥336 謝金、¥45,455 謝金、¥24,156 謝金、¥1,692 会議費、¥3,455 印刷製本費、¥45,240 印刷製本費、¥900 会議費、¥6,964	
①	2023年2月	第1回 役員会(監事を除く役員、オンライン開催)		
①	2023年3月	第1回総会(全会員、オンライン開催)		

5 女性農業者確保の目標

事業実施年度翌年度までの 女性農業者の新規確保人数	16 人※
(新規確保女性農業者の内訳)	
自営農業就業者 14 人、雇用就農者 2 人、アルバイト・ボランティア等	人

- ※ 以下のように新規メンバーの加入を想定
- 令和4年度（事業実施年度）
- ・すでに県内で就農しているメンバー 10人
 - ・新規就農者、研修生 3人
- 令和5年度（事業実施年度の翌年度）
- ・新規就農者、研修生 3人